

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆経団連会長「代替財源の明確化が必須」 衆院選での消費減税巡り

・経団連の筒井義信会長は記者会見で、衆院選の公約で与野党が食料品の消費税率ゼロなどを掲げていることについて「代替財源の明確化が必須だ」と述べた。金融市場の信認維持と、社会保障制度の持続性を確保することが「消費減税の実施の大前提でなければならない」と強調した。

◆消費減税なら実質賃金押し上げ、有効期間は1年限定

・衆院選で与野党が掲げる消費税減税は実質賃金の指標も左右。民間エコノミストの試算では、食料品にかかる軽減税率をいまの8%からゼロにするとインフレ率は2.1ポイント圧縮され、その結果、実質賃金の伸びが押し上げられる。自民党は食料品にかかる消費税について「2年間ゼロ」の検討加速を公約に掲げる。

◆25年度の実質成長率は1.0%、26年度も1.0% NEEDS予測

・日本経済新聞社の経済・金融データサービス「NEEDS」の日本経済モデルに、2026年1月26日までに公表された各種経済指標の情報を織り込んだ予測によると、実質成長率は25年度、26年度とも1.0%の見通しとなった。25年10～12月期の日本経済は設備投資が堅調だったほか、個人消費も底堅く、2四半期ぶりにプラス成長の見通し。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆工作機械受注が国内3年連続減 車投資停滞、航空・造船で反転なるか

・国内の設備投資の停滞が長引いている。業界団体が公表した2025年の工作機械受注額は海外向けが前年比12%増えたのに対し、国内向けは3年連続で減少した。政府が戦略分野として掲げる航空宇宙や造船の用途で明るさも見え始めたが、全体を押し上げるほどに裾野が広がるかは見通しづらい。

◆マンション固定資産税の優遇、新築分譲も対象 修繕積立金が高めなら

・国土交通省は「将来、固定資産税の減税を受けられる」とうたう新築マンションの分譲を可能にする。毎月の修繕積立金を当初から高めに設定し計画的に集めることなどを条件に自治体が対象物件を認定する。将来の積立金不足を防ぎ、マンションを長く適切に維持管理できるよう促す。

◆次世代太陽電池重ねる「タンデム」実証 神奈川県とPXPが協定

・神奈川県と太陽電池製造スタートアップのPXPは曲がる次世代太陽電池を重ねた「次世代型タンデム太陽電池」の社会実装に向けた連携協定を結んだ。耐久性や発電効率の安定性を検証し、曲面や信号機の柱、窓など将来的な用途も検討。薄くて曲がるペロブスカイト型とカルコパライト型を重ね合わせて変換効率を高める。

《 注目商品 》

■シャープ「プラズマクラスターエアコン<Rシリーズ>」

・2027年度を目標とする新省エネ基準を全機種で達成した、プラズマクラスターエアコン<Rシリーズ>8機種を発売。カビの増殖を抑制する「防カビカラッとファン」を新たに搭載。カビ対策として、業界で初めてファンに「超親水ナノコーティング」を採用。



■TOOLBOX、建築家と共同開発した木製二重窓

・既存サッシの内側に設置して心地よい窓辺をつくりだす木製インナーサッシを「SPIN-OFFプロジェクト」の第2弾として建築家・清水忠昭氏と共同開発。mm単位でのサイズオーダーに対応し、網戸タイプも用意。



■後付け可能なアルミ庇、ステー付きで出幅1200mmまで対応

・ダイケンは、木造住宅に後付け可能で雨音が響きにくいアルミ庇「アールエスバイザー RS-K-W型 ステー付タイプ」を発売。木造建築物の外壁を仕上げた後でもコーチスクリューで施工することにより後付けできるアルミ製庇。雨音が響きにくい静音タイプ。

